这是一段中文文本，内容如下：

「国語教育の課題」

というテーマについて、本邦の教育者や学者が取り上げています。課題は多岐にわたり、価値観の形成、言語能力の向上、文化の理解など多種多様です。国語教育は、個々の特性を尊重しつつ、集団の理解を深めることを目的に進められています。

したがって、国語教育の課題は、今後の教育の改革に大きな影響を与えることでしょう。
子どもの存在を無条件に受け容れることは極めて難しい。親なら誰が子に期待するのかは自然なことではないが、「もっと……になって欲しい」ような事実を忘れてはならない。競争を広げた世界で、暴力に他ならない。「はなれ」を称して、親が子に体罰を振るうのは子どもへの人権侵害で、暴力に他ならない。どんな場合でも暴力を使わない子育てや教育が平和の文化と言える。子どもが親や周囲の大人から充分愛され、受け容れて育てば、自信を持ち、自己肯定感を培うことができる。平和の文化はまた自分とは異なるものに対して、偏見や差別をせずに受け容れ、尊重し、対話し、共生する寛容な態度や行動様式である。私たち大人は子どもの声をよく聞き、子どもの思い込みで、聞き逃しているのではないだろうか。子どもは小ささなぶやきを大人の一方的な思い込みで、聞き逃しているのではないだろうか。子どもに非暴力的なあり方を持たせる。自分とは異なる文化をもつ大人の対応が子どもに偏見や差別感を与えるかどうかの分かれ道にもなる。子どもを取り巻く環境が非暴力的でなければならない。今日の日本の子どもをめぐる文化環境にはきわめて暴力的な表現が多いように思われる。玩具や書籍、テレビ
ビューピー、ビデオ、ゲームソフト等のマスメディア、マルチメディアに至るまで子どもに暴力の文化ではなく、平和の文化を育てるものになるように充分検討されることは必要である。さらにこの地球に存在するあらゆる生命を尊重し、地球環境を守ることを考えることもある。

このような平和と非暴力の文化を子どもに育てようとするならば、子どもにかかわる親や保育者が心穏やかな日々を過ごし、ゆとりを持って育てて育育に携わることができる環境が何よりも大切なわけではないだろうが、家庭で母親一人の育育に仕事と育育の両立に苦労している状況ではゆとりのある育育はできない。また保育所や幼稚園で、国や自治体からの補助金が削減され、困った運営をままならないような状況では子どもを育育する保育者の労働環境が良いとは言いえないのではないだろうか。

教育の成果はすぐに現れない。子どもに平和の文化が達成されるような価値観や行動様式を育てることは現在から未来への長期にわたる大きな課題である。しかしがれ平和のためには是非とも実現させたい課題であると思う。

（立教女子学院短期大学）